

男子光星 女子柴田 劇的逆転



【八戸学院光星—桐光学園】試合終了間際、雪田がシュートを決め八学光星は悲願の全国初勝利を手にする—東京体育館

全国高校バスケット第2日

バスケットボールの全国高校選手権（ウインターカップ）は24日、東京体育館などで第2日の男女の1、2回戦が行われた。女子の本県代表・柴田学園は鷗学園（石川）

相手に、終盤の猛攻で逆転。58—55で勝利し、3回戦に駒を進めた。男子の本県代表・八戸学院光星も、桐光学園（神奈川）に68—66で逆転勝利し2回戦進出を決めた。大会3日目の25日、柴田学園は3回戦で岐阜女子と、八学光星は2回戦で阪南大高（大阪）と対戦する。

（佐々木彩乃）

全国の壁ついに突破 光星

八学光星は夏、冬通じて過去8度挑戦したものの、ことごとくはね返されてきた全国の壁をついに突破した。勝利の瞬間、会場には「ウォー」「キヤー」と怒号にも悲鳴にも似た歓声が響き渡った。序盤リードを許し、第2クォーター（Q）には15点差をつけられる苦しい展開が続いた。だが第4Qに入ると八学光星の巻き返しが始まる。主将古澤や成田の3点シュートで追い上げ、残り3分で逆転に成功した。

最終盤、雪田の手痛いファウルで相手にフリースローを決められ同点とされる。時計の針は残り9秒。自分のミスでファウルを与えてしまった。絶対に決めてやる」との思いで打った雪田のラストショットは緩やかな弧を描いてリングを通過。ほぼ同時に、試合終了のブザーが鳴り響き、八学光星が劇的な勝利を収めた。試合を通じてチーム最多の17得点を挙げた主将古澤は、「3年生として、キャプテンとして、自分が引っ張らなければという気持ちがあった。自分たちの代で1勝できたのは大きい」と胸を張った。勝利の瞬間、顔を覆って感極まった佐々木コーチ。「最後まで粘り強く諦めなかったことが勝利につながった」と語り、次戦については「格上相手にチャレンジできるので少しでも収穫がある試合をしたい」と気を引き締めた。

（佐々木彩乃、本間善幸）